

【2011年度事業計画】

I 事業の実施方針

2011年3月に起きた東日本大震災と東京電力福島第一原発の事故を機に、エネルギーに裏打ちされた文明の方向性や、今までの社会のあり方に言及する議論が盛んになっています。政府の温暖化防止対策としての原発推進は見直さざるを得ないでしょう。各方面から自然エネルギーへのシフトの必要性が声高に叫ばれています。

私たちは、地球温暖化防止と共に原子力を利用しない社会への志向を明確に組み込み、今後の活動を見据えていかねばなりません。市民の暮らしが根付いた地域で、市民が主導して自然エネルギーを普及させる仕組みとしての「おひさま発電所」づくりは、より一層その重みを増すものとなりました。

11年目を迎えたきょうとグリーンファンドは、真に持続可能な社会実現を目指し、当初からの方向性を変えることなく活動を進めるとともに、歩んできたこの10年間を捉えなおし、今後の活動に活かします。

- ① 市民共同発電所のモデルとして定着してきた「おひさま発電所」づくりを通して、持続可能な自然エネルギーの普及を進め、まちづくりにも活かします。
- ② 意識と行動の変化を促し、担い手を育てるための環境学習を、さらに効果的に幅広く進めます。
- ③ 地域団体や企業との連携を強め、幅広い市民共同の形を探ります。
- ④ 認定NPO法人の制度を活用し、寄付文化の醸成を意識しつつ「おひさま基金」をはじめとする財政基盤の強化を図ります。
- ⑤ 10年間の活動の効果を検証し、これからの活動に活かします。
- ⑥ 上記の活動を達成するため、会員の拡大を図るとともに、賛同金や寄付などを呼びかけます。

II 特定非営利活動に係る事業

太陽光発電設備設置事業

地域の準公共的施設に、幅広く市民共同で「おひさま発電所」を設置します。

学習活動

- ・ 環境学習会、見学会の開催
さまざまな機会を捉え、エネルギーに関するテーマで学習会を開催、「おひさま発電所」づくりへの理解・協力を促します。
- ・ 既設おひさま発電所や太陽光発電設備設置施設を対象に、他団体との連携も進めながら、環境学習を実施します。
- ・ 環境学習のプログラムの内容について研究し、担い手も含めさらに充実をめざします。

広報活動

- ① ニュースレターの発行
年2回程度発行し、きょうとグリーンファンドの活動・温暖化やエネルギーなどに関する情報を会員・一般市民に提供します。
- ② 各種催しに参加
環境問題・エネルギーなどに関するイベントや地域の催しに参加して活動を紹介し、理解と協力を求めます。他団体との連携も広がります。
- ③ ホームページなどを使った情報発信
5月にサーバーを移転し、TOP ページもリニューアル。きょうとグリーンファンドの活動状況をきめ細かく発信できるよう内容を再検討します。
- ④ おひさま発電所に対して「おひさまだより」を発行し、「おひさま発電所」となった園の保護者へも環境配慮の情報を発信します。

調査・研究

第三者に依頼する形で、きょうとグリーンファンド10年間の活動の効果を検証し、まとめます。

協力・連携

「気候ネットワーク」「環境市民」「東本願寺と環境を考える市民プロジェクト」「自然エネルギー学校・京都」「京エコロジーセンター」「京のアジェンダ21フォーラム」「京都府地球温暖化防止活動推進センター」「京都グリーン購入ネットワーク」「KES環境機構」以上の団体と協力・連携し活動を推進します。